

MASTER VIEW KVM SWITCH



ユーザーマニュアル

CS-88A

注意

この装置は FCC(米国連邦通信委員会)規則、パート 15 の副章 J に従い、デジタル装置クラス B の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、本装置が一般家庭内で取り付けられたときに、有害な電波干渉が発生するのを防ぐために設定されています。また、本装置は高周波エネルギーを使用し、発生させることがあります。この操作マニュアルに従わずに本装置を取り付け、使用した場合、電波通信に有害な障害を起こすことがあります。但し、定められた取り付け方法に従えば、必ず電波障害が起こらないと保証するものでもありません。本装置がラジオまたはテレビの電波受信に有害な障害となっているかどうかは、本装置の電源を入れたり、消したりして、確認してください。また、以下のひとつまたは複数の方法に従って、電波障害の状況を改善されることを推奨いたします。

- ◆ 受信アンテナの向きを変えるか、位置を変えてください。
- ◆ 本装置と受信機の距離を離してください。
- ◆ 受信機が接続されているコンセントと異なる電気回路に本装置のコンセントを差し込んでください。
- ◆ 販売店または、十分な経験を有するラジオ/テレビの技術者にお問い合わせください。



同梱品

基本パッケージ

以下のものが同梱されているか、ご確認ください。

- ◆ CS-88A KVM スイッチ ×1
- ◆ AC 電源アダプタ ×1
- ◆ ラックマウントタブキット ×1
- ◆ ユーザーマニュアル(本書) ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本装置と接続されたデバイスの破損を防ぐために、本ユーザーマニュアルをご使用前によくお読みになり、正しい手順に従ってインストールし、ご使用ください。

© Copyright 2002 ATEN® International Co., Ltd.

Manual Part No.PAPE-0210-1AT

Printed in Taiwan 12/2002

製品名等は、各社の商標または登録商標です。

目次

本マニュアルについて	6
マニュアル表記について	6
第 1 章 はじめに	7
製品概要	7
製品特長	8
必要ハードウェア環境	9
コンソール	9
コンピュータ	9
ケーブル	9
製品各部説明	10
CS-88A フロントパネル	10
CS-88A リアパネル	11
第 2 章 ハードウェア セットアップ	12
単体接続 (CS-88A 1 台のみの導入)	12
カスケード接続 - 2 段階	13
カスケード接続 - 3 段階	14
第 3 章 基本操作	16
ホットプラグ	16
電源オフ、再起動	17
ポート ID 番号	18
ポート切替	19
◆ 手動によるポート切替	19
◆ ホットキーによるポート切替	19
◆ OSD によるポート切替	19
第 4 章 ホットキー操作	20
ホットキーによるポートアクセス	20
ホットキーモードの呼び出し	20
アクティブなポートの選択	21
オートスキャン	22
スキャンインターバルの設定	22
オートスキャン開始	23
スキップモード	24
ホットキービープ音コントロール	25
ホットキー一覧表	26
第 5 章 OSD 操作	27
OSD 概要	27

OSD ナビゲーション	29
OSD メイン画面説明	29
OSD ファンクション	30
◆ F1 GOTO	30
◆ F2 LIST	31
◆ F3 SET	32
◆ F4 ADM	34
◆ F7 SCAN	37
◆ F8 LOUT	37
付録	38
コンピュータ接続台数	38
スタッキングとラックマウント	39
ログイン情報の消去	41
トラブルシューティング	42
CS-88A 仕様	43
製品保証規定	44

第1章 はじめに

製品概要

master view™ CS-88A KVM スイッチは 1 組のコンソール(キーボード、モニタ、マウス)で多数のコンピュータにアクセスすることができるようにするコントロールユニットです。master view™が開発される前は、複数台のコンピュータを 1 組のコンソールで操作することができる唯一の方法は、複雑でコストがかかるネットワークシステムの導入しかありませんでした。master view™ CS-88A を導入すれば、低コストでとても簡単に複数のコンピュータを操作できるようにします。

1 台の master view™ CS-88A で 8 台までのコンピュータをコントロールすることができます。CS-88A は 3 段階までのカスケード接続に対応しておりますので、最大 73 台の master view™ KVM スイッチを導入して 512 台までのコンピュータを 1 組のコンソールで操作することが可能です。

セットアップは簡単でスピーディです。ケーブルをそれぞれの適切なポートに接続するだけで導入作業が完了します。ソフトウェアやドライバのインストールも不要、互換性の問題に悩まされることもありません。master view™ CS-88A は一般的な PS/2 タイプキーボードのエミュレーションを行いますので、多くのハードウェア・プラットフォームでご使用いただけます。

ポート切替えは、3 通りの便利な方法で行います。

1. 製品フロントパネルのポート選択ボタン
2. キーボードからのホットキー入力
3. OSD(オンスクリーンディスプレイ)のメニュー選択

また接続されたコンピュータを自動的に切り替えてモニタリングできるオートスキャン機能も搭載しています。

master view™ CS-88A の導入より時間とコストの節約になる方法はありません。接続されたすべてのコンピュータに 1 組のコンソールでアクセスして操作できるため、以下のような効果を得ることができます。

- ◆ それぞれのコンピュータにキーボード、マウス、モニタを購入する費用を削減
- ◆ 余分なスペースを取らず、スペースの有効利用が可能
- ◆ 省電力
- ◆ コンピュータから他のコンピュータへと絶えず動き回る無駄な労力を削減

製品特長

- ◆ 1組のコンソールで8台のコンピュータを切替操作
- ◆ 3段階のカスケードに対応、最大512台のコンピュータが接続可能
- ◆ ポート切替方法－本体フロントパネルのプッシュボタン、ホットキー、OSD
- ◆ アドミニストレーター/ユーザーの2段階パスワードセキュリティ
- ◆ オートスキャン機能
- ◆ ホットプラグ対応
- ◆ PS/2 キーボード・マウス エミュレーション－Microsoft Intellimouse™対応
- ◆ オートスキャン機能搭載
- ◆ USB キーボード・マウス エミュレーション
- ◆ VGA 解像度－最大 2,048 × 1,536; DDC2B 準拠
- ◆ 19 インチラックマウント対応
- ◆ ATEN 製 ASIC 搭載

必要ハードウェア環境

コンソール

- ◆ 接続するコンピュータの解像度に適した VGA、SVGA またはマルチシンク対応モニタ
- ◆ PS/2 キーボード
- ◆ PS/2 マウス

コンピュータ

接続するコンピュータが以下の装置を搭載している必要があります。


- ◆ VGA、SVGA またはマルチシンクカード
- ◆ PS/2 マウスポート
- ◆ PS/2 キーボードポート(ミニ DIN 6 ピン)、または AT キーボード(DIN 5 ピン)

注意:

1. CS-88A はシリアルマウスには対応しておりません。シリアル-PS/2 変換アダプタを使用してもマウスは機能しません。
2. AT スタイルキーボード(DIN 5 ピン)をご使用になる場合は、別途変換アダプタを使用してください。

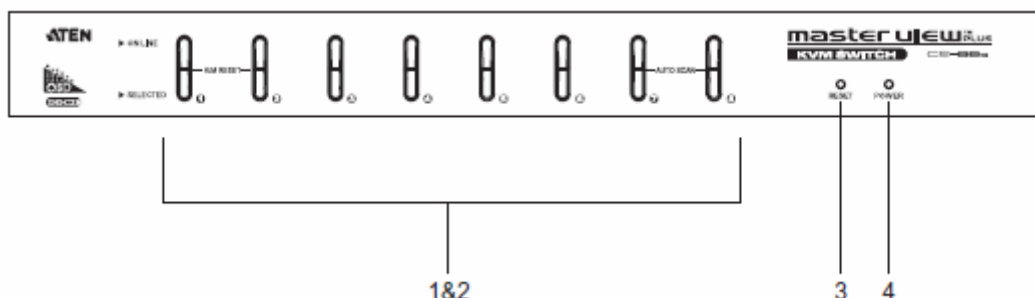
ケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続機器を破損することや、機器の性能を低下させることがあります。理想的な状態でデータ転送を行うためにも、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、以下の CS-88A 対応 CS ケーブルをご使用になることを推奨いたします。

製品画像	機能	型番と長さ
	USB KVM ケーブル	
	スイッチ側 PS/2 × 2 HDB-15 メス × 1	2L-1001P/C (1.2m) 2L-1002P/C (1.8m) 2L-1003P/C (3m) 2L-1005P/C (5m)
	コンピュータ側 PS/2 × 2 HDB-15 オス × 2	

製品各部説明

CS-88A フロントパネル



1. ポート選択ボタン

ボタンを押すことにより、対応するポートに接続されているコンピュータを選択します。

- ◆ 1 と 2 のボタンを同時に 3 秒以上押すことにより、キーボードおよびマウスをリセットします。
- ◆ 7 と 8 のボタンを同時に押すと、オートスキャンモードが始まります。

2. ポート LED

ポート LED はポート選択ボタンに内蔵しています。上部の LED はオンライン LED、下部の LED は選択ポート LED です：

オンライン LED: 対応するポートにコンピュータが接続されており、なおかつ電源がオンになっているときにオレンジの LED が点灯します。LED が点滅している場合は、他の KVM スイッチにカスケードされて使用されていることを示します。(詳しくは P.13 をご参照ください。)

選択ポート LED: 現在コンソールが選択しているポートでグリーンの LED が点灯します。LED ランプが点滅している場合は、そのポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを示しています。(詳しく P.22 をご参照ください。)

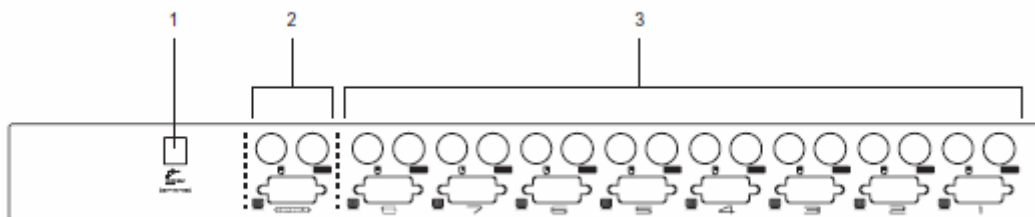
3. リセットボタン

半埋め込み型になっていますので、先の尖った物(ペーパークリップやボールペンの先等)を使用してください。リセットボタンを押してから 3 秒以内に離すとウォームリセット、3 秒以上押し続けると、コールドリセットになります。

4. 電源 LED

この LED が点灯しているときはユニットが電源供給を受けていることを示します。

CS-88A リアパネル



1. 電源ジャック

CS-88A は外部電源不要で設計されておりますが、カスケード接続で使用時またはコンピュータからの電源が十分に供給されない場合、動作が不安定になることがあります。このような際には製品同梱の AC 電源アダプタをこちらに接続してください。

2. コンソールポートセクション

- ◆ 本製品を単体で使用する場合は、キーボード、マウス、モニタのプラグをこちらに接続してください。
- ◆ 本製品を別の CS-88A ユニットの下部にカスケード接続する場合は、上部のユニットの KVM ケーブルをこちらに接続してください。

3. コンピュータポートセクション

対応する KVM ケーブル (P.9 参照) を使用して、コンピュータとユニットを接続してください。

第2章 ハードウェアセットアップ

セットアップの前に



1. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。
2. コンピュータやデバイスへのダメージを避けるために、接続されているすべてのデバイスが正しくアースされていることを確認してください。

単体接続 (CS-88A 1 台のみの導入)

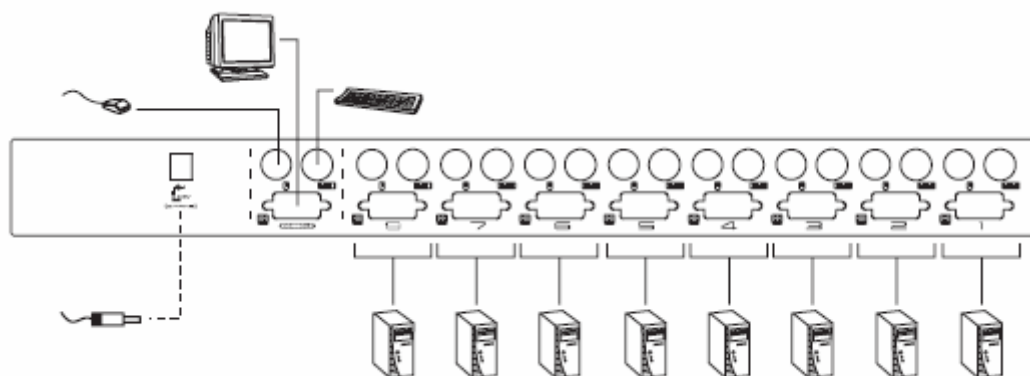
CS-88A を 1 台のみ導入し、ユニット同士のカスケード接続を行わない場合は、以下の手順に従いセットアップ作業を進めてください。

1. お使いになる PS/2 キーボード・PS/2 マウス・モニタのケーブルをリアパネルのコンソールポートセクションに接続してください。
2. 対応する KVM ケーブル (P.9 参照) を使用して、接続するコンピュータとユニットのキーボード、マウス、モニタポートをそれぞれ接続してください。
3. 外部電源を使用する場合は、製品同梱の AC 電源アダプタをこちらに接続してください。

注意:

外部電源を使用しない場合、CS-88A はケーブルを通してコンピュータより電源供給を受けます。このコンピュータからの電源供給が不足する場合やカスケード接続を行う場合には外部電源が必要になります。

4. ケーブルの接続はこれで完了です。接続したコンピュータの電源をオンにしてください。



カスケード接続 - 2 段階

より多くのコンピュータを接続する必要がある場合には、CS-88A ユニット同士でカスケード接続を構成することができます。1 段階目のユニットのコンピュータ側ポートと 2 段階目のユニットのコンソール側ポートを接続することにより、2 段階カスケードで最大 64 台までのコンピュータを接続可能になります。ユニット導入数と接続可能なコンピュータ台数については巻末の表をご参照ください(P.**).

注意:

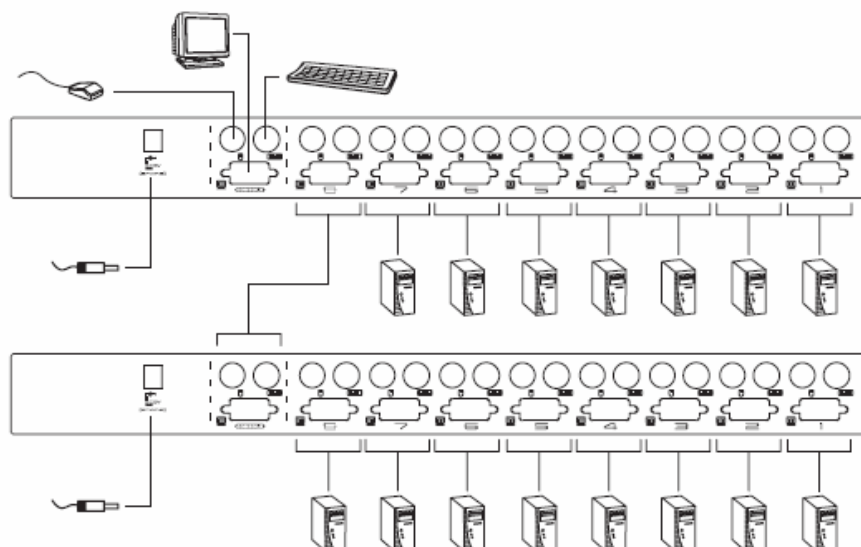
カスケード接続を行う場合には必ず同機種 CS-88A を使用してください。異なる機種の KVM スイッチを接続すると、ポート切替・OSD 等の操作においてキー割り当ての競合が起こる可能性があります。

1. 接続するすべてのデバイスの電源をオフにしてください。すでに KVM スイッチが導入されている場合も、接続されているデバイスすべてをオフにする必要があります。
2. お使いになる PS/2 キーボード・PS/2 マウス・モニタのケーブルを、カスケード 1 段階目になるユニットのリアパネルのコンソールポートセクションに接続してください。
3. 対応する KVM ケーブル(P.9 参照)を使用して、カスケード 1 段階目になるユニットのコンピュータポートと 2 段階目になるユニットのコンソールポートを接続してください。
4. 対応する KVM ケーブル(P.9 参照)を使用して、接続するコンピュータとカスケード 2 段階目になるユニットのコンピュータポートをそれぞれ接続してください。
5. 製品同梱の AC 電源アダプタを電源ジャックに接続してください。
6. 導入するユニット・コンピュータの数に応じて、3.~5.のステップを繰り返してください。
7. 最後にカスケード 1 段階目のユニットに AC 電源アダプタを接続してください。

ケーブルの接続はこれで完了です。接続したコンピュータの電源をオンにしてください。

注意: 電源投入は必ず以下の順序で行ってください。

カスケード 2 段階目ユニット → カスケード 1 段階目ユニット → 接続したコンピュータ



カスケード接続 - 3 段階

CS-88A 同士のカスケード接続は 3 段階まで対応しており、最大 512 台のコンピュータを 1 組のコンソールで操作することが可能になっています。3 段階カスケード接続を行う場合は、以下の手順にしたがい導入作業を進めてください。ユニット導入数と接続可能なコンピュータ台数については巻末の表をご参照ください(P.**).

注意:

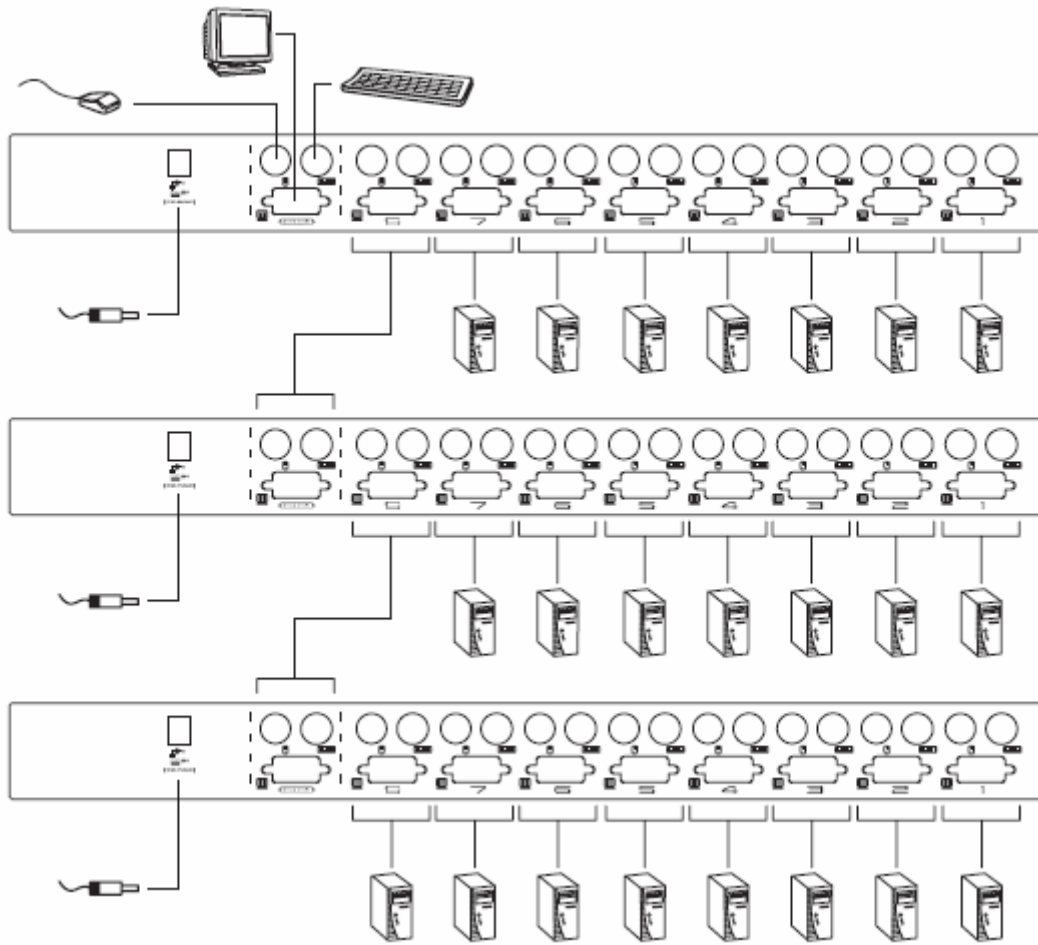
カスケード接続を行う場合には必ず同機種 CS-88A を使用してください。異なる機種の KVM スイッチを接続すると、ポート切替・OSD 等の操作においてキー割り当ての競合が起こる可能性があります。

1. 接続するすべてのデバイスの電源をオフにしてください。すでに KVM スイッチが導入されている場合も、接続されているデバイスすべてをオフにする必要があります。
2. お使いになる PS/2 キーボード・PS/2 マウス・モニタのケーブルを、カスケード 1 段階目になるユニットのリアパネルのコンソールポートセクションに接続してください。
3. 対応する KVM ケーブル(P.9 参照)を使用して、カスケード 1 段階目になるユニットのコンピュータポートと 2 段階目になるユニットのコンソールポートを接続してください。
4. 対応する KVM ケーブル(P.9 参照)を使用して、カスケード 2 段階目になるユニットのコンピュータ側ポートと 3 段階目になるユニットのコンソールポートを接続してください。
5. 対応する KVM ケーブル(P.9 参照)を使用して、接続するコンピュータとカスケード 3 段階目になるユニットのコンピュータポートをそれぞれ接続してください。
6. 製品同梱の AC 電源アダプタを電源ジャックに接続してください。
7. 導入するユニット・コンピュータの数に応じて、4.~6.のステップを繰り返してください。カスケード 2 段階目まで接続が終了したら、そのユニットに AC 電源アダプタを接続してください。
8. 最後にカスケード 1 段階目のユニットに AC 電源アダプタを接続してください。

ケーブルの接続はこれで完了です。接続したコンピュータの電源をオンにしてください。

注意: 電源投入は必ず以下の順序で行ってください。

カスケード 3 段階目ユニット → カスケード 2 段階目ユニット → カスケード 1 段階目ユニット → 接続したコンピュータ



第3章 基本操作

ホットプラグ

CS-88A はホットプラグに対応しています。コンポーネントはシャットダウンせずにスイッチへの接続・取り外しが可能です。コンピュータ側ポート、コンソール側ポートそれぞれのホットプラグは以下の手順に従って行ってください。

注意: コンピュータ側ポートのホットプラグは、2 段階以上のカスケード構成で、コンピュータと直接接続されていないユニットでのみ可能です。コンピュータと直接接続されているユニットのコンピュータ側ポートのケーブルを抜くと、コンピュータ側への PS/2 キーボード・マウスエミュレーション信号が途切れてしまい、システムが不安定になる可能性がありますのでご注意ください。

◆ コンピュータ側ポート ホットプラグ (カスケード接続)

コンピュータ側ポートのホットプラグを行うには：

1. ケーブルは必ず元の接続されていたポートに接続してください。
2. マウスケーブルは必ずキーボードより先に接続してください。
3. 各ケーブルを接続しなおした後、カスケード接続の上位ユニットの KVM リセット (フロントパネルリセットボタンを押して 3 秒以内に離すウォームリセット) を行ってください。詳細は P.10 をご参照ください。

◆ コンソール側ポート ホットプラグ

ユニットはコンソール側ポートのホットプラグに対応しています。

1. マウスのホットプラグを行う場合は、必ず 同じ型番のマウス を接続してください。
2. 異なる機種のマウスを使用する際には、すべての構成の電源をオフにし、10 秒以上待ってから電源を再投入してください。詳細は P.17 の電源投入の項目をご参照ください。

注意:

もし再接続したキーボード・マウスが反応しない場合は、フロントパネルのポート選択ボタン 1 と 2 を 3 秒以上同時に押したままにしてください。この操作により KVM リセットが実行されます。

電源オフ、再起動

構成の中の CS-88A やコンピュータを取り外す必要がある場合は、再接続の前に以下の手順に従って電源オフ、再投入を行ってください。

1. CS-88A に接続している全てのコンピュータをシャットダウンしてください。カスケード接続を構成している場合は、すべての接続されているユニット・コンピュータの電源をオフにする必要があります。

注意:

キーボード起動機能がついているコンピュータが接続されている場合は、そのコンピュータの電源アダプタも抜かなければいけません。そうしないと電源が供給されている状態のままになっています。

2. スイッチに接続した AC 電源アダプタを抜いてください。
3. スイッチへの電源アダプタ再接続は 10 秒以上待つてから行ってください。
4. スイッチに電源が供給されたら最後にコンピュータの電源を入れてください。

ポート ID 番号

CS-88A のコンピュータ側ポートにはすべてポート番号(1~8)が割り当てられています。ホットキーや OSD によるコンピュータの切替は、多数のコンピュータを導入していても、この個別のポート番号を指定することによって可能になります。カスケード接続を行っている場合は、その段数(1~3 段)と接続されているポートに応じて、1~3 桁のポート ID 番号が割り当てられます。

コンピュータのポート ID は、そのコンピュータを接続したポート番号に対応します。例えばカスケード接続でないユニット(CS-88A 単体接続)のポート 3 に接続されたコンピュータのポート ID は **3** になります。

2 段階のカスケード接続を行っている場合は、2 段階目のユニットに接続されたコンピュータのポート ID は 2 桁となります。たとえばカスケード最上段ユニットのポート 2 にユニットが接続されているとします。その 2 段階目のユニットのポート 3 に接続されたコンピュータのポート ID は **23** になります。

3 段階のカスケード接続を行っている場合、3 段階目のユニットに接続されたコンピュータのポート ID は 3 桁となります。たとえばカスケード最上段ユニットのポート 2 にユニットが接続され、その 2 段階目のユニットのポート 4 にユニットが接続されているとします。その 3 段階目のユニットのポート 1 に接続されたコンピュータのポート ID は **241** になります。

ポート切替

CS-88A のポート切替操作は直接フロントパネルのポート選択ボタンを押す手動切替、キーボードからの便利なホットキー操作、OSD 画面によるポート選択の 3 つの方法があります。

◆ 手動によるポート切替

フロントパネルのポート選択ボタンを直接押すことによって、対応するポートに接続されたコンピュータに KVM コントロールを切り替えることができます。OSD 画面を表示させている場合は、リスト画面で選択したコンピュータがハイライト表示されます。

注意:

1. カスケード接続を行っている場合は、切り替えたいコンピュータが直接接続されているスイッチのポート選択ボタンを押さなくてはなりません。カスケード接続時のポート切替は OSD またはホットキーによる方法が便利です。
2. ポート選択ボタン 7 と 8 を同時に押す(カスケード接続の場合は最上位のスイッチのポート選択ボタン)と、オートスキャンモードになります。オートスキャンでは、クイックビューポート(P.36 参照)として選択されているポートが設定した間隔で自動的に切り替えて表示されます。切替間隔の設定は P.33 の OSD ファンクション **F3 SET SCAN DURATION** の項目をご参照ください。

◆ ホットキーによるポート切替

キーボードからのキー組み合わせ入力で、ポート ID を直接入力して切り替える便利なホットキー操作があります。このホットキー切替操作については P.*20 第 4 章 ホットキー操作をご参照ください。

◆ OSD によるポート切替

OSD(オンスクリーンディスプレイ)は、スイッチに接続されているコンピュータをリスト形式で表示します。このリスト表示をマウスでクリックする、またはポート ID を直接入力することによってコンピュータにダイレクトに切り替えることができます。OSD 操作の詳細については P.27 第 5 章 OSD 操作をご参照ください。

第4章 ホットキー操作

ホットキーによるポートアクセス

ホットキーによって、キーボードから直接特定のコンピュータに KVM コントロールを切替えることができます。CS-88A は、以下のようなホットキーポートアクセス機能を備えています。

- ◆ アクティブなポートの選択
- ◆ オートスキャン
- ◆ 前後のポートへの切り替え

ホットキーモードの呼び出し

ホットキーによる全ての操作は、まず HKM(ホットキーモード)を呼び出してから行います。ホットキーモードの呼び出しは、次の手順で行います。

- 1) [Num Lock]キーを押したまま
- 2) [*]アスタリスクキーまたは[-]マイナスキーを押し、すぐに離します。
- 3) [Num Lock]キーを離します。

[Num Lock] + [*]

or

[Num Lock] + [-]

注意: アスタリスク、マイナスキーは押下してからすぐに(0.5 秒ほど)離すようにしてください。そうしないと入力が無効になります。

ホットキーモードが有効になったら:

- ◆ Caps Lock と Scroll Lock の LED が交互に点滅し、HKM が有効になったことを示します。
- ◆ 画面にコマンドラインが表示されます。青い背景に黄色の文字で、入力したホットキーコマンドが表示されます。
- ◆ 通常のキーボード・マウス入力は無効になり、ホットキー入力およびマウスのクリックのみが有効になります。
- ◆ ホットキーモードではテンキー使用に制限があります。[-]マイナスキーは使用できますが、数字の入力は無効となり、対応する矢印キーとして動作してしまいます。数字の入力はキーボード上部のキーを使用してください。
- ◆ [Esc]を押すと HKM を終了します。

アクティブなポートの選択

それぞれのコンピュータポートは、ポート ID を割り当てられています(ポート ID 番号、P.18 参照)。ホットキーを用いて、このポート ID を指定することにより各ポートに接続されたコンピュータに直接アクセスすることが可能になります。以下の手順に従って入力して下さい:

1. HKM を有効にしてください(前ページ参照)
2. 切替えるコンピュータのポート ID 番号を入力

ポート ID 番号はディスプレイ上にコマンドラインにて表示されます。もし間違った番号を入力した場合は[Backspace]キーにて修正してください。

3. [Enter]キーを押してください。

KVM は指定されたポート ID に接続されたコンピュータに切替り、ホットキーモードは自動的に解除されます。

ポート ID 入力例

- ◆ 単体接続でポート 3 に切り替える場合

[Num Lock]+[*] → [3] → [Enter]

- ◆ 2 段階カスケード接続

[親機のポート 2]→[2 段階目ユニットのポート 3]に切り替える場合

[Num Lock]+[*] → [2] → [3] → [Enter]

- ◆ 3 段階カスケード接続

[親機のポート 6]→[2 段階目ユニットのポート 4]→[3 段階目ユニットのポート 8]に切り替える場合

[Num Lock]+[*] → [6] → [4] → [8] → [Enter]

注意:これらのポート ID の数字は順番に押してください。

オートスキャン

オートスキャンモード時は、現在のオペレータがアクセス可能なすべての CPU ポートに対し、一定の間隔(Scan/Skip Mode:P.33 参照)で切替えながらモニタ表示をします。この機能は複数のコンピュータの動作を自動的に監視するのに便利です。

スキャンインターバルの設定

オートスキャンで各ポートを表示するインターバル時間の設定は、OSD の F3 SET 機能(P.33 参照)で行いますが、以下のホットキー操作によっても設定変更が可能です。

1. HKM を有効にしてください(P.20 参照)

2. [T] , [n]とキー入力してください。

[T]は[T]キー、[n]は任意の数字です。1～255 秒の間で設定してください。

[T]のキーと入力した数字はコマンドライン上に表示されます。もし間違った場合は

[Backspace]キーで修正してください。

3. [Enter]キーを押してください

[Enter]キーを押した後は、自動的に HKM は解除され、指定のとおりオートスキャンモードを実行する設定になっています。

オートスキャン開始

オートスキャン開始のホットキーは以下の通りです：

1. HKM を有効にしてください(P.20 参照)
2. [A]キーを押してください。

[A]キーを押した後、自動的に HKM は解除され、オートスキャンモードになります。

- ◆ オートスキャンモードで動作中、特定のポートで[P]キーを押す、もしくは、マウスの左クリックを行うと一時停止状態になります。この状態の時は、コマンドライン表示により、*Scan: Paused*と表示されます。

オートスキャン状態をストップするには 2 つの方法があり、一つがこの一時停止機能です。一時停止機能はオートスキャンモードを完全に終了させるよりも便利です。オートスキャンを終了してしまうと、次に再開したときは構成の最初のコンピュータからスキャンを行うこととなりますが、一時停止からのスキャン再開は、停止していたポートの次のポートからスキャンされます。

一時停止からの再開は、任意のキーを入力する、もしくはマウスを左クリックしてください。

- ◆ オートスキャンモード時は、通常のキーボード入力とマウス機能は無効になります。オートスキャン中に実行可能なキー入力とマウスクリックのみ可能となります。通常のキー入力を行う場合は、オートスキャンモードを終了してください。

3. オートスキャンモードを完全に終了する場合は、[Esc]または[スペースキー]を押します。この操作によって、いつでもオートスキャンモードを終了させることができます。

スキップモード

この機能では、コンピュータからコンピュータへの切替えを手動で行います。一定間隔で自動的に切替わるオートスキャンモードとは違って、スキップモードでは特定のポートを表示させておく時間を自由に決めることができます。以下のホットキーによって、スキップモードを実行することができます：

1. HKM を有効にしてください(P.21 参照)

2. [矢印]キーを入力してください

- ◆ キーボードの[矢印]キーを使います。矢印キーを押した後は、自動的に HKM は解除されます。以下のホットキーの組み合わせを入力してください：

[←]を押すと、現在のポートより一つ前のアクセス可能なコンピュータに切替わります。
[→]を押すと、現在のポートより一つ後ろのアクセス可能なコンピュータに切替わります。

- ◆ 一旦スキップモードを実行すると、矢印キーを押す度に、スキップ操作を実行できます。毎回ホットキーモード呼び出しの操作をする必要はありません。
- ◆ スキップモードを実行している間、通常のキーボードとマウス機能は、サスペンドされます。スキップモード中に有効なキー入力のみ可能となります。通常のキー操作をする必要がある場合は、スキップモードを終了してください。

3. スキップモードを終了するには、[Esc]または[スペースキー]を押してください。

ホットキービーブ音コントロール

ビーブ音のオン/オフは OSD ファンクションで設定しますが(P.30 参照)、ホットキーでも設定可能です。ホットキー組み合わせは以下のようになっています。

1. HKM を有効にしてください(P.20 参照)。
2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押すと、ビーブ音オン/オフが切り替わります。設定確認のために、コマンドラインで Beeper On/Beeper Off の文字が 1 秒間表示されます。また操作後に HKM は自動的に解除されます。

ホットキー一覧表

[Num Lock] + [*] or [Num Lock] + [*]	[ポート ID] [Enter]	入力したポート ID のポートに接続されたコンピュータにアクセスします。
	[T] [n] [Enter]	オートスキャンのインターバルを設定します。[n]は秒数を示し、1～255 秒の間で設定します。
	[A]	オートスキャンモードを実行します。 オートスキャンモード時は、[P]または左クリックで一時停止になります。 オートスキャンが一時停止状態で、任意のキーを押す、または左クリックすることによって、オートスキャンを再開します。
	[←]	スキップモード時に、現在のポートより一つ前のアクセス可能なコンピュータに切替わります。
	[→]	スキップモード時に、現在のポートより一つ後ろのアクセス可能なコンピュータに切替わります。
	[B]	ビープ音のオン/オフを交互に切替えます。

第5章 OSD 操作

OSD 概要

OSD (オンスクリーンディスプレイ) はメニュー形式で表示され、KVM スイッチに接続されているコンピュータの操作・切替を行う機能です。すべての操作は OSD メインスクリーンから始めます。OSD メイン画面を表示するには [Scroll Lock] キーを 2 度押します。

注意:

OSD を表示するホットキーは、[Scroll Lock] キー 2 度押しから [Ctrl] キー 2 度押しに変更することもできます (P.32 参照)。この場合の [Ctrl] キーはキーボードの同じサイドを使ってください。

OSD は 2 レベル (アドミニストレーター/ユーザー) のパスワード保護がされています。OSD メイン画面が表示される前に、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。管理者によってパスワードが設定されている場合は、OSD メイン画面にアクセスするには有効なユーザー名とパスワードを入力しないといけません。

OSD の初回起動時、パスワードはまだ設定されていません。ログインするにはユーザー名 & パスワード入力画面で [Enter] キーを 2 度押ししてください。OSD メイン画面はアドミニストレーターモードで表示されます。このモードではユーザーはアドミニストレーター権限を持ち、パスワードの設定も含めすべての機能を使用することができます。




OSD が起動すると、このような画面が表示されます。

PN	QV	⚙	NAME
1-6-6	◀	⚙	ATEN INTL. 1
1-6-7			ATEN INTL. 2
1-6-8		⚙	ATEN INTL. 3
1-7	◀	⚙	FAX SERVER 1
1-8			FAX SERVER 2
2-1	◀	⚙	WEB SERVER 1
2-2			WEB SERVER 2
2-3	◀	⚙	MAIL SERVER 1


注意:

- 1) この画面はアドミニストレーターモードのもので、ユーザーモードではアドミニストレーターのみが使用できる F4 ADM ファンクションは表示されません。
- 2) OSD は常にリスト表示され、選択時に使用するハイライトバーは前回 OSD 終了時の位置を復元して表示されます。
- 3) ユーザーモードでは、管理者によってそのユーザーにアクセス権限が与えられているポートのみが表示されます。

OSD ナビゲーション

- ◆ メニューを閉じて OSD を終了するには、OSD メイン画面右上にある × マークをクリックするか、[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトするには OSD メイン画面上部の[F8]または  マークをクリックするか、[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示の上下の行に移動したい場合は、三角マーク(▲▼)をクリックするか、キーボードの上下の矢印キーを押してください。表示されているリスト以外にも多くのエントリがある場合には、リスト画面がスクロールします。
- ◆ リスト表示の画面を上下に切り替えたい場合は、矢印マーク(↑↓)をクリックするか、キーボードの[Page Up] [Page Down]キーを押してください。表示されているリスト以外にも多くのエントリがある場合には、リスト画面がスクロールします。
- ◆ KVM 操作するポートを切替える場合は、リスト画面でクリックするか、ハイライトバーを移動させて[Enter]キーを押してください。
- ◆ 何らかのアクションを実行したあとは、自動的に一段上のメニューに戻ります。

OSD メイン画面説明

見出し	説明
PN	この項目はポート ID 番号(ポート ID 番号の詳細は、P.20 を参照)です。すべてのコンピュータポートに番号があります。簡単な切替え方法としてハイライトバーを移動し[Enter]を押すこともできます。
QV	クイックビュー時に表示するポートを選択(クイックビューポート設定の詳細は、P.36 を参照)すると、QV の項目には矢印が表示されます。
	電源がオンになっていて、かつオンラインになっているコンピュータはこの太陽マークが表示されます。
Name	ポートに対して名前を登録(ポート名前編集の詳細は、P.35 を参照)した場合、この項目にポート名前が表示されます。

OSD ファンクション

OSD ファンクションでは、OSD 操作に関する以下のような設定を行います。

- ・任意のポートへのクイックアクセス
- ・特定のポートのオートスキャン
- ・ポートへのアクセス権限の設定
- ・クイックビューポートの設定
- ・ポート名称の編集
- ・ユーザー管理
- ・システム管理
- ・OSD 設定

OSD ファンクションにアクセスするには：

1. メイン画面上部にあるファンクションキーをクリック、またはお使いのキーボードのファンクションキーを押してください。
2. サブメニューの選択は、サブメニュー名をダブルクリックするか、リスト表示でハイライトバーを移動させ、「Enter」キーを押してください。
3. [Esc]キーを押すと一段上のメニューに戻ります。

◆ F1 GOTO

F1 GOTO 機能により、直接ポート名称、もしくはポート ID を入力することで、ポート切替えが可能です。

- ◆ 切替えにポート名称を使用する場合は、まず[1]キーを押し、ポート名称を入力後[Enter]を押してください。
- ◆ 切替えにポート ID 番号を使用する場合は、まず[2]キーを押し、ポート ID 番号を入力後[Enter]を押してください。

注意：ポート名称、もしくはポート ID の頭文字を入力すると、条件に当てはまるポートがリスト表示されます(アクセスポートの設定詳細は P.36 参照)。ポート名称とポート ID のリスト表示は設定に依存します(詳細は F2 LIST 参照)。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、[Esc]キーを押してください。

◆ F2 LIST

この機能を用いて、OSD がメイン画面に表示するポートの範囲を設定することができます。OSD フังก์ションの多くは、メイン画面のリストに表示されている中から、選択されたコンピュータだけを操作します。下記の表は、サブメニュー画面の選択肢とその意味です。

設 定	機 能
ALL	コンピュータが接続されているポート全てをリストアップします。
QUICK VIEW *	クイックビューポート(P.36 参照)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON	電源が入っているコンピュータに接続されているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON	クイックビューポート(P.36 参照)として選択され、かつ電源がオンのコンピュータが接続されたポートをリストアップします。

* アドミニストレーターのみがクイックビューポートの設定を行うことができます(詳細は、P.36を参照)。

ポートを選択するには、リストでハイライトバーを移動して[Enter]キーを押してください。切替わるとアイコンが現われ、現在選択したポート ID を表示します。

◆ F3 SET

F3 SET では各ユーザーの使用環境の設定をします。それぞれのプロファイルは OSD 内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。

設定変更をするには、F3 SET の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させ[Enter]キーを押してください。

次に表示されたサブメニューの、変更したい項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動して[Enter]キーを押します。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下記のリストをご参照ください：

設 定	機 能
OSD HOTKEY	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] 2 度押しまたは [Ctrl] 2 度押し [Ctrl]キーの組み合わせは、コンピュータで使用中のプログラムに対して不都合がある可能性があるため、デフォルトは[Scroll Lock]キーの組み合わせになっています。
PORT ID DISPLAY POSITION	画面のどこにポート ID ディスプレイを表示するかを決めます。デフォルトでは画面の左上ですが、画面の任意の位置にポート ID を表示することができます。 ポート ID の表示位置を決めるには、マウスまたは矢印キーと[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、そして[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を用います。それから、ダブルクリックまたは[Enter]を押して位置を定め、F3 SET のサブメニュー画面に戻します。
PORT ID DISPLAY DURATION	ポートの変更が行われた後、モニタ画面にポート ID を表示する時間を決定します。 User Defined: ユーザー設定 (1~255 秒間) Always On: ポート ID を常に表示 User Defined を選択した場合は、秒数を入力しその後[Enter]を押してください。デフォルトでは 3 秒間です。0 秒で設定するとこの機能を使用不可にします。

(この表は次ページに続く)

(F3 SET の続き)

設 定	機 能
PORT ID DISPLAY MODE	ポート ID 表示方法を選択します。ポート番号のみ (PORT NUMBER)、ポート ネームのみ (PORT NAME)、または、ポート番号とポートネームの組み合わせ (PORT NUMBER + PORT NAME) があります。デフォルトではポート番号 とポートネームの組み合わせです。
SCAN DURATION	オートスキャンモード (P.37 の F7 SCAN をご参照ください) で選択されたポート それぞれを循環して表示する際のインターバル時間を設定します。1~255 秒 までの秒数を入力し、その後 [Enter] を押してください。デフォルトは 5 秒間 です。0 秒で設定すると SCAN 機能を使用不可にします。
SCAN/SKIP MODE	スキップモード (P.24 をご参照ください) とオートスキャンモード (P.22 をご参照 ください) を実行する際、どのコンピュータにアクセスするかを設定します。選択 方法は以下の 4 つです。 ALL — ユーザーがアクセス可能な全てのポート (P.36 参照) POWERED ON — アクセス可能で、かつ電源がオンのポートのみ QUICK VIEW — アクセス可能で、かつクイックビューポート (P.36 参照) とし て設定されたポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON — アクセス可能で、クイックビューポートと して設定され、かつ電源がオンのポートのみ デフォルトは、ALL になっています。
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面はブラン クになります。1~30 分までの時間を入力してから、[Enter] を押します。0 分 で設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは 0 分 (不可) となっ ています。

◆ F4 ADM

F4 ADM はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能によりアドミニストレーターは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で F4 ADM をダブルクリックするか、または上下の矢印キーを使ってハイライトバーを移動させ、[Enter]を押します。

設定したい項目を選択すると、その下のサブメニューが表示されます。選択したいものをダブルクリックするか、または、ハイライトバーをそこまで移動させたあと、[Enter]を押します。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下記の表の通りです。

設 定	機 能
SET USERNAME AND PASSWORD	<p>この機能でユーザー名とパスワードを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. アドミニストレーター1人およびユーザー4人のパスワードが設定できます。2. ユーザーフィールド、またはアドミニストレーターフィールドのうち、1つを選択すると、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザー名とパスワードは英数字(A~Z, 0~9)のうち、最大12文字までの組み合わせが可能です。3. 各人のユーザー名とパスワードを入力したあと、[Enter]を押します。4. 以前のユーザー名またはパスワードを修正・消去する場合は、文字と数字をバックスペースキーを用いて消してください。 注意: ユーザー名とパスワード情報をすべて消去して工場出荷時の状態に戻すには、P.41のログイン情報の消去をご参照ください。
SET LOGOUT TIMEOUT	<p>この機能で設定した時間、コンソールからの入力が無い場合、オペレータは自動的にログアウトされ、コンソールを再び使用する前にもう一度ログインが必要となります。</p> <p>この機能はあるオペレータがもうコンピュータにアクセスする必要がなくなったのにログアウトを忘れた場合、他のオペレータがそのコンピュータにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの設定は、1~180分までの数値を入力し、[Enter]を押します。0分で設定すると、この機能を使用不可にします。デフォルトは0分(不可)となっています。</p>

(この表は次ページに続く)

(F4 ADM の続き)

設 定	機 能
EDIT PORT NAMES	<p>どのポートにどのコンピュータが接続されているか覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。アドミニストレーターはこの機能でポートネームを設定したり、編集したり、削除したりすることができます。</p> <p>ポートネームを編集するには、</p> <ol style="list-style-type: none">1. 編集したいポートをクリックするか、そこにナビゲーションキーを使ってハイライトバーをそこに移動させます。そして、[Enter]を押します。2. 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正、または、削除してください。最大文字数は 12 文字で、以下の文字が使用できます。<ul style="list-style-type: none">◆ アルファベット全て: a~z ; A~Z◆ 数字全て: 1~9◆ 記号: + - / : . およびスペース大小文字は関係ありません。OSD ではすべて大文字で表示されます。3. ポートネームの編集が終了したときは、[Enter]を押して、その変更を有効にしてください。変更を途中で止める際には、[Esc]を押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES	<p>この機能は、変更された設定すべてをデフォルト値に戻します。ただし、ポート識別を補助するポートネームの設定及びクイックビュー設定だけは、保持されます。</p>
CLEAR THE NAME LIST	<p>この機能は RESTORE DEFAULT VALUES とよく似ていますのでご注意ください。異なる点は、変更された設定すべてをデフォルト値に戻すとともに、ポートネームとクイックビュー設定をも削除します。</p>
ACTIVATE BEEPER	<p>ビープ音の設定を行います。Y(ビープ音有)を選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(P.22 参照)が有効になっている時、または、OSD メニューで無効な入力がされた時は常にビープ音が鳴ります。デフォルトは Y(有)となっています。</p>

(この表は次ページに続く)

(F4 ADM の続き)

設 定	機 能
SET QUICK VIEW PORT	<p>どのポートをクイックビューポートとして選択するかを設定します。 注意: 現在 OSD 画面でリストビューとして選択されているポートのみが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、クイックビューポートにしたいものをダブルクリックするか、上下の矢印[↑][↓]キーを使用してハイライトバーを移動させた後、[スペースキー]を押してください。 ◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」列に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、矢印は表示されません。 ◆ F2 LIST (P.31 参照)にクイックビューオプションの一つが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ もし、オートスキャン機能 (P.22 をご参照ください)にクイックビューのオプションのうち 1 つが選択された場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 <p>デフォルトではどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。</p>
SET ACCESSIBLE PORT	<p>この機能でアドミニストレーターはポートごとにユーザーのアクセス権を決定できます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、そのあと[スペースキー]を押して、F(フルアクセス) / V(見るのみ) / ブランクという選択肢の間を循環させます。全てのアクセス権を設定するまでこの動作を繰り返し、それから[Esc]を押します。デフォルトは、全てのポートの全てのユーザーに対し、F(フルアクセス)となっています。</p> <p>注意: ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはメイン画面のユーザーのリストには表示されません。</p>

(この表は次ページに続く)

◆ F7 SCAN

F7 SCAN をクリックするか、[F7]を押すと、オートスキャンモードが呼び出せます。この機能は一定間隔にて設定されたコンピュータを自動的に切替えて表示することができます。これにより、手動で切替える手間をかけずに複数のコンピュータの動作を監視できます。

- ◆ F3 SET で設定された **SCAN/SKIP MODE** (P.33 参照) を使用して、オートスキャンするコンピュータを選択します。
- ◆ 各ポートを表示する時間は、F3 SET 機能の **SCAN DURATION** (P.33 参照) で設定できます。
- ◆ 各コンピュータにオートスキャンモードでアクセスされている場合、ポート ID ディスプレイの前に **S** の文字が表示されます。
- ◆ オートスキャンモード中、スキャンを一時停止して特定のコンピュータにフォーカスしたい場合は、[P]を押すかマウスの左ボタンをクリックしてください。詳しくは、P.23 のオートスキャンの呼び出しをご参照ください。
- ◆ スキャンを停止して特定のポートにアクセスする場合は、そのポートをスキャン中、[スペースキー]を押してオートスキャンモードを終了してください。もしスキャンがコンピュータの接続されていないポートにある、または接続されているが電源オフになっているポートに来ている場合は、モニター画面はブランクになり、マウスやキーボードは機能しません。**SCAN DURATION** で設定した時間経過後、表示は次のポートへと移動します。
- ◆ オートスキャンモードが動作中は、コンソールは機能しません。コンソールを使用する場合は、オートスキャンモードを解除してください。
- ◆ オートスキャンモードを解除するには、[スペースキー]または[Esc]を押してください。

◆ F8 LOUT

F8 LOUT をクリックするか[F8]を押すと、コンピュータの OSD 操作からログアウトし、コンソール画面をブランク(空白)にします。この操作は、OSD 画面から出るために[Esc]を押すのとは異なります。[Esc]操作では、再度 OSD 画面を表示するためには OSD ホットキーを押すだけなのに対し、この機能では OSD にアクセスするのに、再度ログインしなければなりません。

注意:

1. OSD からログアウト後に再び OSD を表示した場合、OSD メインメニュー以外は表示されません。ユーザー名とパスワードを入力後、使用可能になります。
2. ログアウト後に再び OSD を表示し、メニューからポートを選択しないで[Esc]キーを使用して OSD を閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面には **Null Port** 無効ポートメッセージが表示されます。

コンピュータ接続台数

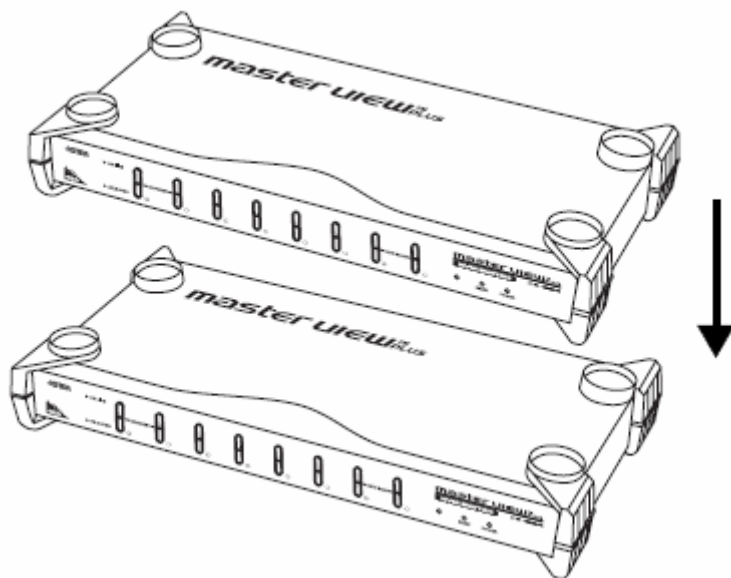
以下の表はカスケード接続による CS-88A 導入台数と接続可能なコンピュータの台数の関係を示しています。新たに設備を導入する際の参考にしてください。

MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ
1	8	21	141 - 148	41	281 - 288	61	421 - 428
2	8 - 15	22	148 - 155	42	288 - 295	62	428 - 435
3	15 - 22	23	155 - 162	43	295 - 302	63	435 - 442
4	22 - 29	24	162 - 169	44	302 - 309	64	442 - 449
5	29 - 36	25	169 - 176	45	309 - 316	65	449 - 456
6	36 - 43	26	176 - 183	46	316 - 323	66	456 - 463
7	43 - 50	27	183 - 190	47	323 - 330	67	463 - 470
8	50 - 57	28	190 - 197	48	330 - 337	68	470 - 477
9	57 - 64	29	197 - 204	49	337 - 344	69	477 - 484
10	64 - 71	30	204 - 211	50	344 - 351	70	484 - 491
11	71 - 78	31	211 - 218	51	351 - 358	71	491 - 498
12	78 - 85	32	218 - 225	52	358 - 365	72	498 - 505
13	85 - 92	33	225 - 232	53	365 - 372	73	505 - 512
14	92 - 99	34	232 - 239	54	372 - 379		
15	99 - 106	35	239 - 246	55	379 - 386		
16	106 - 113	36	246 - 253	56	386 - 393		
17	113 - 120	37	253 - 260	57	393 - 400		
18	120 - 127	38	260 - 267	58	400 - 407		
19	127 - 134	39	267 - 274	59	407 - 414		
20	134 - 141	40	274 - 281	60	414 - 421		

スタッキングとラックマウント

◆ スタッキング

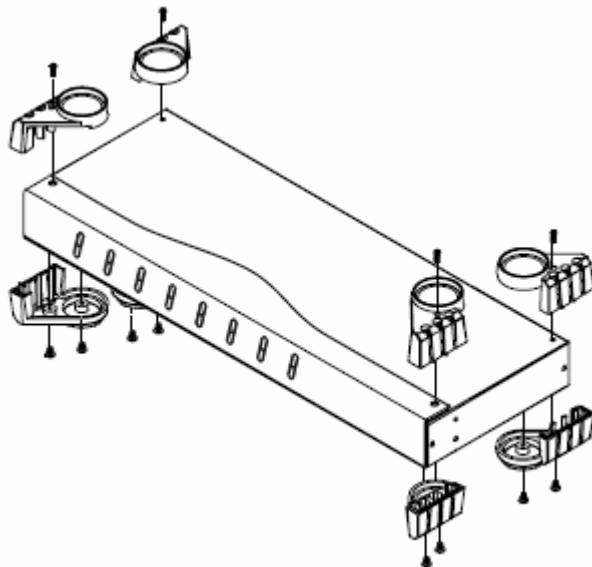
CS-88A は四隅についているスタッキング用ブラケットを使用して上下に安定して重ねることが可能です。重ねるときにはブラケットのくぼみがしっかりとかみ合っ固定されるようにしてください。



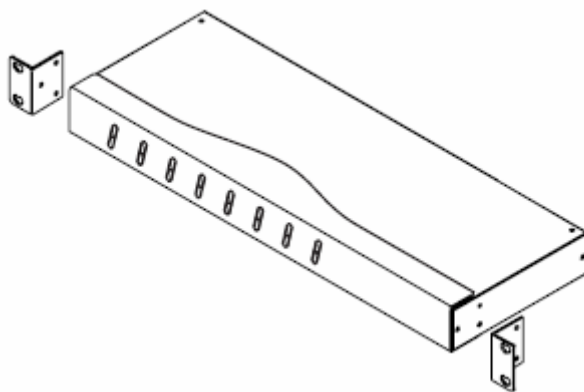
◆ ラックマウント

システムラックへの取り付けは図を参考にして以下の手順で行ってください。

1. CS-88A 四隅のスタッキング用ブラケットを固定しているネジを外してください。



2. 製品同梱のラックマウントタブを、フロントパネル横のネジ穴を使用して固定してください。

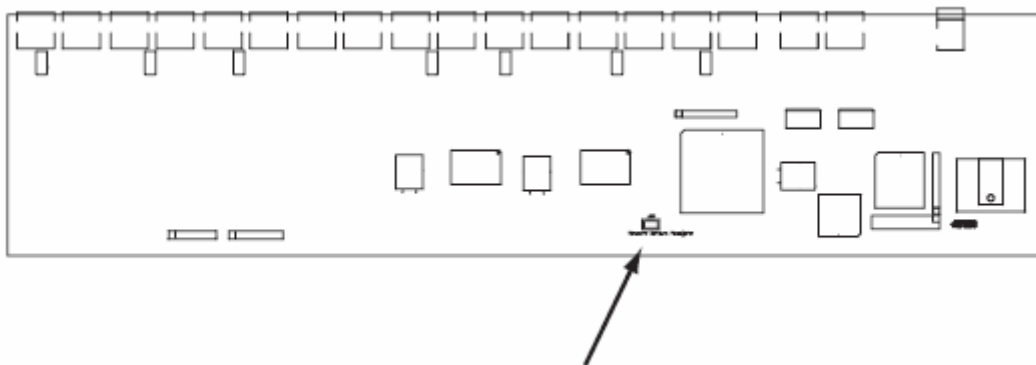


3. システムラックの前面からスライドさせて入れ、ラックへ固定してください。

ログイン情報の消去

パスワードを忘れる、その他何らかの理由でアドミニストレーター権限のログインができなくなった場合、下記の手順ですべてのログイン情報を消去することができます。

1. スイッチの電源をオフにして、本体ケースを開けてください。
2. メインボードの下図で示した場所（製品のフロントパネル側中央付近になります）にある、Restore Default Password と書かれているジャンプスイッチ **J22** をショートさせてください。



3. スイッチの電源をオンにしてください。モニタに以下のようなメッセージが表示されます。
USER NAME AND PASSWORD INFORMATION HAS BEEN CLEARED.
PLEASE POWER OFF THE SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE THE CASE, THEN RESTART.
4. スイッチの起動後、OSD のログインパスワードは工場出荷時の状態に戻っています。ログインするときには初回起動時と同じ手順になります。（P.27 参照）

トラブルシューティング

症状	考えられる原因	対処
動作が不安定	電力が不十分でセルフパワーで稼働できていない	電力が不足しています。製品同梱の AC 電源アダプタを接続してください。
ホットキーが反応しない	選択されたポートに接続されたコンピュータの電源がオフになっている、あるいは何らかの問題が生じている可能性	<p>選択したポートのオンライン LED が点灯しているか確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 接続したコンピュータの電源がオンになっているポートのポート選択ボタンを押してみてください。 2. コンピュータ側に KVM ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
	キーボードのリセットが正しく行われていない	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポート選択ボタン 1 と 2 を同時に 3 秒以上押してキーボード・マウスのリセットを行ってください。 2. コンソールポートのマウスケーブルを一度抜いて、それから接続しなおしてください。
	スイッチ本体のリセットが正しく行われていない	すべてのコンピュータ、スイッチの電源をオフにしてください。電源の再投入は 5 秒以上待ってから行ってください。(P.17 参照)
	ポート ID が正しく入力されていない、またはホットキー入力のタイミングが遅い	選択したいポートの ID を正しく入力したか確認してください。またホットキー操作によるポート選択では、ホットキーモードを起動してから ([Num Lock]+[*]) ポート ID の入力の各キー操作をそれぞれ 1 秒以内で行わなくてはなりません。
マウスが反応しない	マウスリセットが正しく行われていない	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポート選択ボタン 1 と 2 を同時に 3 秒以上押してキーボード・マウスのリセットを行ってください。 2. コンソールポートのマウスケーブルを一度抜いて、それから接続しなおしてください。

CS-88A 仕様

機能		CS-88A
コンピュータ 接続数	ダイレクト	8
	最大(カスケード)	512
ポート選択		プッシュボタン、ホットキー、OSD
コンソール側 コネクタ	キーボード	ミニ DIN 6 ピン メス × 1
	マウス	ミニ DIN 6 ピン メス × 1
	モニタ	HDB-15 メス × 1
コンピュータ側 コネクタ	キーボード	ミニ DIN 6 ピン メス × 8
	マウス	ミニ DIN 6 ピン メス × 8
	ビデオ	HDB-15 オス × 8
LED	選択ポート	グリーン × 8
	オンライン	オレンジ × 8
	電源	ブルー × 1
スキャンインターバル		1~255 秒(ユーザー設定) / 5 秒(デフォルト)
キーボード/マウス エミュレーション		PS/2
VGA 解像度		最大 2,048 × 1,536; DDC2B 準拠
電源仕様		DC 9V
消費電力		1.08W(最大)
動作環境	動作温度	0~50°C
	保管温度	-20~60°C
	湿度	0~80%RH 結露なきこと
ケース材料		メタル
重量		2850g
サイズ (W×D×H)		433 × 150 × 44.5mm

製品保証規定

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品の販売店は、製品および本ドキュメントの使用に関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる表示・保証も行いません。

弊社は製品および付属のソフトウェア・ドキュメントについて、予告なしに改良・改訂を行う権利を有します。詳細については販売店までお問い合わせください。